

令和3年度

事業計画書

令和3年4月1日から
令和4年3月31日まで

公益財団法人がん研究会

(はじめに)

公益財団法人がん研究会の令和3年度の事業計画は、当会が果たすべき使命、すなわちがん研究及びがん医療の推進と提供を図るとともにそれらを支える財政基盤の確立を図ることとしている。

(環境認識)

予て我が国では急速な人口の高齢化に伴い年々増加する社会保障費の抑制が大きな課題としてあり、加えて新型コロナウイルスが及ぼす医療及び社会への深刻な影響が今後どうなるのか見通しが立たない非常に困難な状況に置かれているが、がん医療の推進は国を挙げての取り組みであり、「がん克服をもって人類の福祉に貢献する」という当会の使命を果たすために、いかなる状況にあっても歩みを止めることなく診療と研究が一体となり新しいがん医療の実現を目指し、我が国のがん医療の向上の一翼を担っていく所存である。

(事業計画)

本年度においても、当会の事業目的を果たしていくため、次の点について取り組んでいくこととして事業計画を策定した。

1. がんに関する基礎から臨床までの体系的研究
2. がんに関する先進的な医療の推進
3. がんに関する調査研究及び出版等による情報発信
4. がんに関する検診及びがん予防に関する普及啓発
5. がんに関する研究の奨励及び研究活動の支援
6. がんに関する研究及び医療の推進又は普及のための人材の育成
7. がんに関する学術集会の開催又は優秀なる業績に対する表彰
8. がんに関する研究・医療のための国際交流
9. 国内および国際的な対がん運動への参加協力
10. その他目的を達成するために必要な事業

それぞれの事業内容は、以下の通り。

1. がんに関する基礎から臨床までの体系的研究

公益財団法人がん研究会は、基礎的ながん研究を推進している「がん研究所」に加えて、開発型研究や橋渡し研究の推進に特化した「がん化学療法センター」および「がんプレジジョン医療研究センター」と、臨床研究を推進するがん研究会有明病院とが、一体となってがん研究拠点を形成しており、令和3年度も、基礎から臨床までの体系的がん研究を推進する。これらの研究事業の多くは、本財団および本財団に所属する研究者に交付される、文部科学省、厚生労働省および経済産業省の科学研究費等の公的資金や、国内の民間財団による研究助成金により支援され、その成果は、一流の国際的科学雑誌に発表するとともに、各研究事業の報告書に取りまとめて公開を行う。また、成果の一部に関しては、その知的財産を確保

することにより、新規のがん医療開発への応用を促進する。

なお、これらの研究事業のうちの代表的なものは、以下の通りである。

(1) がんの基盤的基礎研究

がん研究会では、従来より、文部科学省の科学研究費補助金特定奨励費の支援を受けており、直近では、平成30年度から3年間に亘って、下記に示す枠組みにより体系的がん研究を推進し、着実に成果を上げて来た。そして、現在、すでに文部科学省の募集に応じて、これまでと同様の枠組みで、さらに多くの新たな研究開発課題を取り込んでの研究推進を企画し、申請・提案を行った。これが採択されれば、令和3年度より3年間、新たな特定奨励費の支援による研究を継続的に推進する予定である。

研究項目1. 先進的がん予防・診断法開発のための基盤的基礎研究

研究項目2. 先進的がん治療法開発のためのマルチオミックス解析による基盤的基礎研究

研究項目3. がん革新的病理診断法確立のための基盤的基礎研究

研究項目4. ヒトがん由来バイオリソースを用いた個体・細胞レベルの基盤的基礎研究

(2) 次世代がん医療創生事業の推進

平成26年度より、省庁連携によるがん研究事業としてジャパンキャンサーリサーチプロジェクト(JCRP)が構築され、その基軸事業の一つである次世代がん研究シーズ育成プロジェクトに参画し、その一部を担当してきた。

JCRPは引き続き日本医療研究開発機構(AMED)のもとで推進され、平成28年度から6年間の計画でAMEDが新たに立ち上げた次世代がん医療創生事業(P-CREATE)にがん研究会は参画してきたが、平成30年度に実施されたステージゲート評価の結果、令和3年までの後半3年間の事業参画の継続が決定した。AMEDにおける研究事業推進体制の見直しに伴い、令和2年度からは「AMED医薬品プロジェクト」において推進されている本事業も、本年、最終年度を迎えることとなるが、がん研究会は、引き続いて、次世代の優れたがん医療の開発に繋がる研究開発・研究支援を推進する。

(3) NEXT-Ganken プログラムによる基礎的がん研究の推進

がん研究会研究本部では、がん医療開発研究の推進を目的として得られた寄付金を原資として、がん研有明病院との緊密な連携のもと、令和2年度より5年間の予定で、次世代の革新的がん医療の創生に繋がる先進的な知見を得るための基礎的がん研究を推進する。令和3年度は、先進的解析技術導入と優れた研究者の雇用により、ここまでにNEXT-Gankenプログラム内に構築した研究推進基盤を活用し、がん研有明病院のがん患者さんから貴重な各種検体の提供を受けて、その先進的解析から得られるデータを蓄積するとともに、そのデータを先進的情報解析技術により解析することで、がんの本態解明に寄与する革新的知見を得る。

2. がんに関する先進的な医療の推進

病院と研究所の緊密な連携のもと、医療現場における課題を研究へフィードバックすることによる新薬の開発など研究成果の医療現場への適用を推進する。このため平成28年度に設置した臨床研究開発センターの実施体制の充実を図り、患者さんがより迅速かつ安全に先進的な医療を受けられるための各種臨床研究を推進する。また、令和元年度に設置した先端医療開発センターの充実を図り、がん免疫医療やがんゲノム医療などの革新的がん医療開発に取り組んでいく。

安全・安心で高質な医療を提供するため、診断および治療に関与する各部門の医師が参画して、先進的診断法で得られる各種情報をもとに最適な治療法を決定する「キャンサーボード」方式による最適な治療実施とともに、がん患者に必須であるがんと診断された時からの緩和ケアを推進し、先進的でシームレスながん医療を総合的に推進していく。令和元年度に設置したトータルケアセンターを中心に、緩和治療から患者とご家族のケアまでトータル的な支援を推進していく。

当院の強みと克服すべき課題を踏まえ、患者の利便性も考慮した医療を提供できるよう地域の医療機関との連携を推進するとともに、安全・安心で質の高い医療を提供していく。

3. がんに関する調査研究及び出版等による情報発信

当会の診療実績を各科横断的にデータベース化する統合データベースシステムの開発を推進し、臨床研究活動の支援を進める。また、当システムの全国のがん拠点病院への普及に向けての検討を開始する。これらにより、がんに関する調査研究のための情報発信を行い、診療実績のデータベース化や全国規模のがん登録データに基づくがん治療の質の評価等の調査研究を推進するとともに、広報機能の強化により、広く社会に還元していく。

また、がんとの共生に関する啓発活動の一環としてこれまで2回実施してきた「がん患者さんが歌う第九」を令和4年3月に計画しており、実施に向けて準備を進める。

4. がんに関する検診及びがん予防に関する普及啓発

がんの早期発見・早期診断を一層充実させるため、がん発生の分子機構に関する新しい知見を取り入れ、健常者も含めた各種データを用いた解析により、新たながん予防法の開発に繋がるエビデンスを収集しながら、がん検診の標準的診断手法の開発を推進していくとともに、市民公開講座の開催などを通じて、広く社会に向けて、がん検診・がん予防に関する啓発活動を推進する。平成28年度に拡充した健診センターは、高い稼働率を維持しており、引き続き国が進めるがん検診の啓発に沿って、より質の高いがん専門検診の提供を目指す。

5. がんに関する研究の奨励及び研究活動の支援

世界規模でのがん研究支援を行っている UICC（国際対がん連合）の一員として、UICC 日本委員会を通じて、がん研究者間の国際的共同研究を支援するための Yamagiwa-

Yoshida Memorial International Cancer Study Grants の実施を引き続き支援するなど、国内外におけるがん研究の奨励や支援を行う。

またがん研究会は、文部科学省が、科学研究費補助金の新学術領域研究の一つとして、平成28年度より6年間の予定で立ち上げた「学術研究支援基盤形成 先端モデル動物支援プラットフォーム」事業に参画しており、令和3年度も国内の研究者・研究機関の要望に対応して、がん細胞パネルを用いた研究支援や発がんモデル動物の作製・提供等の活動を行い、引き続き国内のがん研究推進の支援を行う。

6. がんに関する研究及び医療の推進又は普及のための人材の育成

がん研究会では、東京大学、東北大学を始め、6カ所の大学と連携大学院制度を運営し、また、外部の研究機関から多くの研究者を研究生として受け入れている。令和3年度も、これらの制度を通じて多くの外部人材を受け入れその育成を行う。また、有明病院においても、医師・看護師等の様々な職種の医療人を研修生として受け入れ、がん実践研修プログラム等による育成を図り、がん治療の現場における指導者となるべき人材の養成を図っていく。

7. がんに関する学術集会の開催又は優秀なる業績に対する表彰

国内外のがん研究の振興を目的として、以下に示すセミナー等の学術集会の開催や、がん研究で優秀な業績を収めた研究者の表彰等を引き続き実施する。

- (1) 基礎から臨床まで、国内外で先進的ながん創薬研究を推進する研究者を招き、今後のがん創薬研究の一層の促進を図るための国際会議である **JFCR-ISCC (International Symposium on Cancer Chemotherapy)** の開催
- (2) 日本の抗がん剤開発の諸問題を討議し、より効果的な研究開発を推進することを目的とした「抗悪性腫瘍薬開発フォーラム」の開催
- (3) 国内外の著名ながん研究者による「がん研セミナー」の開催
- (4) 国内のがん医療・がん対策の推進について議論を行うことを目的とした「がん研アカデミー」の開催
- (5) 国内外で優れた業績を収めた研究者を表彰するための「比較腫瘍学常陸宮賞」事業の推進
- (6) 日本癌学会の学会賞の1つであり、がんの臨床研究や疫学研究で優秀な業績を収めた研究者に贈られる「長与又郎賞」への支援の実施

8. がんに関する研究・医療のための国際交流

がん研究・医療推進のための国際交流として、引き続きハーバード大学 MGH がんセンターとの研究交流、北京大学深圳病院などとの国際交流や、中国におけるがんの早期発見のための技術支援を実施する。また、日本における抗がん剤開発研究を促進するため「JFCR-ISCC(International Symposium on Cancer Chemotherapy)」を開催する。

9. 国内および国際的な対がん運動への参加協力

当会として、UICC 日本委員会の事務局およびUICCアジア支局(UICC-ARO)を設置し、その業務の支援を通じて、国際的な対がん運動のサポートを引き続き実施していく。

10. その他目的を達成するために必要な事業

昨年10月に今後の10年を見据えた「中長期戦略2030」を策定、またこれを踏まえ令和3年度から始まる次の3か年の中期計画を策定した。令和3年度は新しい中期計画の初年度として、公益法人の社会的使命を果たすために必要な事業を継続していく。

新型コロナウイルスは医療のみならず社会的にも大きな問題であるが、正しく理解し行動することで影響を最小限に抑制していく。昨年12月より新型コロナウイルス感染患者の治療を開始しており、今年度においても特定機能病院の責任を果たすべく状況に応じて新型コロナウイルス感染患者の受け入れを行う。また、地震や台風等自然災害リスクに備え、がん患者及び職員の安全確保のための環境整備に継続的に取り組む。

公益法人の責務を果たすためには強固な財政基盤の確立も重要な課題であり、そのためにクラウドファンディング等の募金についても重点施策の1つとして取り組んでいく。

以上